

『学校法人越原学園 地域連携ニュースレター』創刊によせて

総合科学研究所所長 渋谷 寿

平成29年6月28日に、越原学園と瑞穂区役所との間で、包括連携協定を締結して以来、総合科学研究所が越原学園地域貢献事業の窓口となり、様々な活動に包括的に関わることになりました。これにより、学園全体の様々な地域連携の内容が把握できるようになり、今後全学的な交流の促進やさらなる事業の発展が期待されます。

昨年度の瑞穂区役所との包括連携協定を契機に、平成29年度の学園全体で行われている地域貢献事業を調べてみますと、本学文学部、家政学部、短期大学部、総合科学研究所、オープンカレッジ事務室、学術情報センター（大学図書館）、越原記念館、中高生徒部会、中高JRC顧問、中高一貫教務部、財務課などの様々な部署で実践がなされてきました。連携先としては、名古屋市瑞穂区役所、同総務課・福祉課・民生子ども課・地域力推進室・企画経理室などが、瑞穂区役所以外としては、名古屋市瑞穂児童館、名古屋市健康福祉局・名古屋市瑞穂保健所（現：名古屋市瑞穂保健センター）、瑞穂生涯学習センター、名古屋市交通局、愛知県教育振興会、愛知県史編纂室、文部科学省学術基盤整備室、CBC、日本赤十字社、あしなが育英会、とこなめ焼き協同組合、八事福祉会、ライトハウスなど実に多くの組織と連携しながら約30種類の様々な地域貢献事業を展開してきていることとなります。実際には、複数回実施し

た実践や、まだ未確認の実践も含めると、更に多くの地域貢献事業を実践していることになるでしょう。

最近の事業としては、平成30年8月22日に総合科学研究所と瑞穂区役所共催講座として、「育休復帰応援講座 時短レシピクッキング」が行われました。本学の建学の精神は、高い教養を身に纏った、良き家庭人であり、力強い職能人としての女性を育成することにあります。この講座は正に、子育てをしながら働く女性を応援する、参加者も満足していただける講座になりました。今では大学の、地方自治体や企業との連携事業は、ある意味当然と言える程の位置づけになっていますが、本学創立者の、良き家庭人であり、力強い職能人を育成するという思いに応える、様々な分野における専門性を活かした実践は、今後ますます本学園としての地域に根ざした重要な事業になると思われま

す。本地域連携ニュースレターでは、平成29年度に実践した本学教職員の専門性を生かした地域連携事業をご紹介します。また、総合科学研究所といたしましては、今後の地域連携のあり方を明らかにした文部科学省の考え方に沿った、事業、実践のありかたも検討していきたいと考えております。

● 総合科学研究所

平成29年9月～平成30年3月（児童館計13回、保健所全6回）実施

「開かれた地域貢献事業」について

総合科学研究所が推進する「開かれた地域貢献事業」として、地域の公共施設である名古屋市瑞穂児童館と名古屋市瑞穂保健所とのコラボレーション事業は11年目となり、平成29年度を無事終了しました。また瑞穂区役所との新たな地域貢献事業を模索する動きが強まったのを受け、瑞穂区役所との連携事業がスタートしました。

瑞穂児童館との交流事業は、児童館を拠点として、本学の教職員と学生が断続的に支援する形で、地域の子育て支援を行うことを目的としています。平成29年度も、定期的な講座とイベント開催の2本立てで実施することとなり、保育・教育、栄養・生活関係で13の講座と、児童館クリスマスイベントで5つの企画を行いました。クリスマスイベントは地域の恒例行事となり、多くのご家族が楽しい休日を過ごしました。

瑞穂保健所との交流事業では、これまでと同様に講座を開き、総合科学研究所の「開かれた地域貢献事業」として共催することとな

りました。平成28年度から新しい総合事業の一般介護予防事業として「若返りきらきらセミナー」という愛称のもと、認知予防、運動、栄養、口腔にわたるテーマで、6つの企画を行いました。講座では、瑞穂保健所健康ささえ隊による「みずほ体操」の実演も行われました。

さらに、瑞穂区役所との協定締結を受け、瑞穂区役所との連携事業についても協議が開始され、瑞穂区内の働く女性の支援を目的としたイベントを開催する構想を計画しました。その結果、平成30年度には第1回目となる連携事業「育休復帰応援講座 時短レシピでクッキング！」が開催されました。

これらの事業はいずれも、本学教員並びに学生有志、春光会、および総合科学研究所の教職員が協力して実施し、多くの方にご参加いただきました。今後とも、地域の方々と触れ合う機会を多くご提供し楽しんでもらい、各公共施設との連携を図る事業を計画、推進すべく、取り組んでまいります。

(文責：森屋裕治)



小学生向けプログラミング講座



クリスマスイベント



愛知の味 味噌煮込みラーメン作り



懐かしい唱歌、童謡を歌おう

●家政学部 平成30年1月31日締結

『とこなめ焼共同組合と協定締結』に寄せて

名古屋女子大学家政学部は、とこなめ焼協同組合と「茶器評価および緑茶文化啓発支援」に関する協定を締結しました。本協定は、学生が協働型 PBL（プロジェクト型学習）により産業界を支援しようとするものです。千年の歴史を有する愛知県の伝統工芸「とこなめ焼茶器」の素晴らしさを科学的根拠によって検証しその発展に資する事、日本の緑茶文化のもつ感性や奥深さといった「人の内面の豊さ」を体得し、伝承していく事を目的としています。

(文責：白井靖敏)



締結の様子

●文学部 毎月1回実施

さくらひろば

「さくらひろば」は、瑞穂区役所内に開設されている未就園児（0、1、2歳）の親子の交流を目的とした子育てサロンです。この交流の場に本学の学生たちがボランティアとして参加しています。絵本の読み語りや手遊びなど、大学の授業や実習を通して学んだ知識や技術を活かした活動を行っています。参加親子への落ち着いた関わりや言葉かけ、礼儀正しい立ち居振る舞いなど、参加者やスタッフからの評価も高く、将来保育者をめざす学生の大きな学びの場となっています。

(文責：村田あゆみ)



絵本を楽しむひと時

●家政学部 平成30年2月26日(月)実施

瑞穂区役所連携事業「めいじょサロン」

本事業は、地域在住高齢者の方を対象に仲間づくりの場となる拠点型サロンを提供するとともに、学生が高齢者との世代間交流により相互理解を深めることを目的に、今年2月に開催しました。今回は食と健康をテーマに、低栄養リスクとその予防法（日頃から簡単にできるフレイルや食事のとり方のチェックリスト）に関する講話を行い、その後は個別相談、身体測定（骨密度・握力・血圧）、カフェなどの各ブースに分かれ、自由に楽しんでいただきました。特に骨密度計には長蛇の列ができ、時間延長するほどでした。

運営スタッフとして参加した学生の多くは核家族世帯であり、高齢者の方との触れ合いがほとんどないまま専門職に就くことになります。このサロンに携わることでコミュニケーション力の獲得や企画運営能力を学ぶ良い機会になったようです。

(文責：横山弥枝)



個別相談経済担当の金井雄一先生
心理担当の大鐘啓伸先生

最新の食に関するトピックを教えてほしいと
健康意識の高い参加者

●文学部 平成29年10～11月(全5回)実施

公開講座「子どもの豊かな育ちのために」

文学部では、瑞穂生涯学習センターとの共催による講座「子どもの豊かな育ちのために」をテーマとした5回講座を開催しました。

1冊の絵本がどのように作られているのかについて学ぶ「絵本のしくみとその秘密」（第1回）、ヒノキ素材を使った玩具づくりに挑戦する「親子で楽しむヒノキの玩具づくり」（第2回）、子どもへの接し方についての理解を深める「親子の愛着を育てるコミュニケーション」（第3回）、「うまはとしとし」「おちよず」などのわらべ歌を子どもと向き合いながら楽しむ「親子で楽しむわらべ歌」（第4回）、家庭でも行える運動やリズム遊びを体験する「親子ふれあい体操とリズム遊び」（第5回）といった内容で5名の文学部教員がそれぞれの専門分野による講義や親子の実践活動を行いました。玩具づくりやわらべ歌、体操・リズム遊びといった表現領域の親子活動では、はじめは恥ずかしがっていたお子さんも次第に楽しく遊んだり、お子さんからの新たな展開やアイデアが提案されるなど、活動を通して親子が向き合い、子どもの成長の一コマを共にする大切な機会を提供することができました。

(文責：村田あゆみ)



親子で楽しむヒノキの玩具づくりの様子

● 短期大学部

平成29年8月5日(土)実施

瑞穂区民まつり2017

全国的にも珍しい取り組みである短期大学部生活学科の授業『地域貢献演習』と『女性が活躍できる街づくり』協定の 일환として参加しました。『瑞穂区民まつり』には平成27年から参加しており、平成29年8月5日が3回目の参加となりました。出展企画への学生の参加は自由参加とし、地域貢献につながるボランティア活動をしたい学生33名がスタッフとして参加して会場を盛り上げました。毎年2月に本学内で実施する地域貢献イベント『春待ち小町』のミニ版としての『第28回春待ち小町マルシェ』としても実施し、学生企画の手作りゲーム2種類（「空前絶後のヒエーイ鳥わなげ」と「ポールすくってみヨーカイ」）および賞品交換コーナー（「ドキドキトレジャーセンター」）を実施しました。16時から開始し20時まで実施しましたが、常に各ゲームに30～50名の待ち行列ができ、スタッフは休む時間がない状態で対応しました。両ゲームで、延べ400名近くのお客さんがありました。

(文責：川田博美)



オープンから順番待ちの行列が絶えず多くのみなさんに楽しんでもらいました



テント内では、2種類の手作りゲームを提供しました

● 中高一貫

平成29年6月30日(金)実施

選挙出前トーク

本校の一貫教育課程では、年に6回土曜講座が実施されます。昨年の6月に行われた一貫5年生と一貫6年生を対象にした土曜講座では、瑞穂区役所と名古屋市立大学による「選挙出前トーク」が実施されました。まず、選挙の意義について三浦ゼミのゼミ生の皆さんによる話と、架空の立候補者による演説が行われました。その後、模擬投票が行われましたが、ここではなるべく本物の投票所と同じような雰囲気の中で行われることを狙って、瑞穂区役所からお借りした国政選挙で使用する投票箱や投票記載台などを使用し、名簿対照係や投票立会人などといった役割もたてて行われました。実施後の生徒の感想として、投票をすることに対するハードルは随分下がったといったものが目立ちました。

現在、高校在学中の18歳になると選挙権が得られますが、生徒にとっては深く考える機会等ないまま、18歳を迎えることも多いようです。今回の「選挙出前トーク」は、多くの方のご協力により、選挙について深く考える良い機会となりました。

(文責：金原和仁)



どのような人に投票したらよいか、その視点を教えていただきました



国政選挙と同じ雰囲気の中で投票が行われました

● 短期大学部

平成30年2月7日(水)実施

さくらひろばでの 手遊び・オペレッタ発表

平成30年2月7日に瑞穂区子育てサロン「さくらひろば」で、保育学科の学生16名が手遊びやオペレッタを行いました。瑞穂区役所講堂の広い空間で、多くの子ども達やお母様方と触れ合うことができました。オペレッタでは、授業で学んだことを生かして「おべんとう」をテーマに衣装とお話を準備し、好き嫌いなく食べることの大切さを伝えました。子ども達は、お姉さん達と一緒に笑顔で踊ったり体を動かしたりして、会場が和やかな雰囲気になっていました。

(文責：白石朝子)



おにぎり、ハンバーグ、トマト……様々なおかずに分した学生たち

● 中高

平成29年8月2日(水)実施

街頭献血ボランティア 活動を終えて

連日38℃超えの毎日でしたので、当日は参加生徒も早めに到着し、予め暑さに対するの気合入れをしてから街頭に立ちました。

初めての参加者は、街中で大声を上げ呼びかけをすることに恥らいもありましたが、まもなく自分達の役割に没頭するかのようになり、夢中になって活動を行えました。余りの暑さで人通りも減っているとのことでしたが、後で献血会場を覗くと、ご協力して下さる方々の姿が目に入り、とても嬉しかったです。今後も精一杯活動を続けたいと思います。

(文責：神谷弘子)



栄献血ルーム前です。大津通沿いの便利な場所にあります

名古屋市が設置する 山崎川周辺の「銘板」に 学園資料を提供

名古屋市は昔の街並みなどの写真を掲載する銘板を市内各所に設置し、地域の歴史や文化に触れ、魅力を発信しています。瑞穂区内の銘板「かなえいけ鼎池としんあまいけ新雨池〜今は姿を消した二つの池の記録〜」（平成30年2月16日設置）には学園が協力し、除幕式には多くの区民の方が参加されました。

銘板「鼎池と新雨池」には、鼎池と水田を埋め立ててゴルフ場が造られた写真（昭和9年）、今は北陸上競技場・プールなどになっている萩山公園（新雨池）（昭和10年）の学園写真を提供し、地域にとっても貴重な資料として役立てていただきました。

（文責：鈴木孝子）



銘板設置場所
瑞穂公園松並木散策路内（北陸上競技場北）

瑞穂図書館と連携した絵本おはなし会

平成27年キャンパス統合を機に新館をオープンし、学部、短大全ての学生が利用することとなった大学図書館では、新図書館のコンセプトに『はぐくむ図書館』を掲げ学生への学修支援のほか、主体的活動への参画支援のプログラムの展開をしています。その中のひとつに学生による地域の子供たち向けの『絵本おはなし会』があります。

『絵本おはなし会』は全学学生が参加する活動として平成28年より大学図書館で開始しましたが、平成29年12月からは、瑞穂図書館の「おはなしのへや」でも『瑞穂図書館・名古屋女子大学図書館コラボ企画「学生ボランティアによるおはなし会」』を月1回開催しています。おはなし会では、学生達が毎回プログラムを考え、絵本や紙芝居の読み聞かせほか、手遊びやペープサートなど、工夫を凝らした内容での全体会と、子どもと一対一での対面読みを行っています。



学生による対面読み



おはなしのへやでの絵本おはなし会

特に、対面読みが好評で、毎回楽しみに参加くださる親子さんもおり、学生には活動を通じた社会経験と、自身の学びを深める場となっています。

本活動は、学生の地域貢献活動のひとつとして今後も取り組みを続けていく予定です。

（文責：尾崎友子）

平成30年度の予定

※ここに掲載しているイベントは一部です

4月	
5月	
6月	●みずほ福祉会館健康まつり(6/11、家政学部)
7月	●『瑞穂プロムナード』発行(短期大学部)
8月	●瑞穂区民まつり(8/4、短期大学部) ●育休復帰応援講座 時短レシピでクッキング!(8/22、総合科学研究所)
9月	●めいじょサロン(9/11、家政学部)
10月	●公開講座「心身ともに健康な生活を」(~11月、オープンカレッジ) ●mamacafe ハロウィンイベント(10/21、短期大学部)
11月	
12月	●めいじょサロン(家政学部) ●瑞穂児童館共催クリスマスイベント(12/8・9、総合科学研究所) ●冊子『東区文化のみち あれこれ』に春子先生記事を掲載(越原記念館) ●CBC チャリティ募金「こどもにピタッ」(中高生徒会)
1月	
2月	●さくらひろばコンサート(2/6、短期大学部)
3月	●『瑞穂プロムナード』発行(短期大学部)、●『さくらスイーツマップ』発行(短期大学部)
その他	●とこなめ焼共同組合との協定締結 茶器評価および緑茶文化啓発支援(通年、家政学部) ●瑞穂区役所さくらひろば(通年、文学部、短期大学部) ●名古屋土曜学習プログラム(年間13回、文学部) ●老人施設訪問(毎月、中高)、●絵本おはなし会(月1回、大学図書館)

編集後記

地域連携ニュースレターの創刊号を発行できましたこと、ご協力頂きました多くの皆様に厚く感謝申し上げます。こうして出来上がったニュースレターを見てみると、地域貢献として様々な活動が行われており、越原学園が名古屋市内、そして瑞穂区にしっかり根付いていることが良く分かります。「このような活動が行なわれていたのか。」と驚くとともに、越原学園の力を感ずることが出来ます。この学園の教育・研究活動が地域に支えられ、そして地域へとそれを還元していくことで、地域に力が生まれ、また新しい活動を生み出していきます。地域連携ニュースレターでは今後、こうした活動を紹介すると共に、新しい流れを見せていきたいと思っています。

（文責：吉川直志）